

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・インフレが続き安定期に入ったかと思いきや、機械メーカーでは今年4月より10%程度の価格アップとの事。関連の材料費も当然値上げとなる。結果とし顧客先の設備投資控えに繋がり、我々零細企業の商状が悪化する。対策として機械設備更新の営業のほか、機械メンテ保守についての方針強化も考えなければならない。
- ・原材料高騰・人手不足および人件費・労務費の上昇により厳しい状況が続いている。
- ・工事はあるが、人材不足で全ての工事を請けられていないのが現状。人を雇うにもお金をかけて募集しなければならず、採算面で負担になっている。

◎製造業

- ・年末に中途採用で社員が1人増えた。2月にもう1人社員紹介で入社する予定。2人とも40歳前後で経験なしであるが頑張っている。これからが楽しみ。

◎卸売業

- ・昨年は元旦に能登半島地震があったため、業績に風評的被害があり、2~3ヵ月は続いた。
- ・昨年の年初に比べ、穏やかな一年が始まったが、年末の消費の反動と物価高から、今月の売上は低調となる模様。今後の降雪量の増加等悪天候による影響が大いに気掛かりである。

◎小売業

- ・小売業界では、光熱費や生活必需品などの継続的な物価上昇に対して、実質賃金の上昇が伴っておらず、消費者の生活防衛意識は依然として高い状態が続いている。それに加えて、人件費や物流コストも上昇している。さらには業種、業態の垣根を超えた競争もあり、引き続き厳しい経営環境が続いている。
- ・ウクライナ戦争が世界の経済に大きな影響を与えている。
- ・製造小売業は非常に厳しい時代へ。

◎サービス業

- ・年末年始でインフルエンザに罹患した社員や、社員の家族もいるため休む人が増えている。新年会のシーズンに入り、更にインフルエンザが増えていかないか心配。
- ・インフルエンザ、コロナの感染拡大による乗務員の欠勤が營收減に直結する。
- ・今年の干支にちなんで実（巳）のなる1年であることを期待している。曜日の関係から休日が長く、人流は期待外れであった。政府の補助策が外れてきたこともあり、燃料費などの高騰が厳しい。
- ・1月は例年休日も多く閑散期となる。売上・利益は昨年同様の予定。求人は継続して行っているため、適した人材を補充できることを望む。
- ・2026年卒向けのリクルート活動が年明けから本格化してくるが、年々採用応募者が減少傾向にあり、希望採用人数を満たせるのか懸念があると共に将来的な人手不足に対する手立てを傍目に打つ必要性があると感じている。
- ・燃料代をはじめとしたエネルギーコストの高騰と人手不足も相まって、厳しい経営環境が続いている。
- ・前年は1日に発生した能登半島地震の影響により、キャンセルが多く発生し落ち込み続けた。今年に関してはマイナス要素がなく、また年末からの9連休が好影響となり、個人需要が大きく伸長した。しかし各種コストも上がり続けていることで、増益基調とは言えない状況である。
- ・昨年は、能登半島地震の影響で新潟も被害を受けたことで売上、来客数にも影響があった。昨年

に比べると落ち着きがある。しかし昨年末より消費に陰りが見えているように感じられる。全ての物価上昇と家計の可処分所得の停滞が影響していると思われる。

- ・電子帳簿保存法の各社取組み状況を知りたい。